

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0770102507		
法人名	有限会社 ヴォルフアート		
事業所名	グループホーム四季彩		
所在地	福島県福島市永井川字光白50 (電話) 024-539-7810		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.7.15	評価確定日	H20.8.25

【情報提供票より】(20年6月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9人, 非常勤 7人, 常勤換算11.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(6月24日現在)

利用者人数	12名	男性	1名	女性	11名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 81.4歳	最低	68歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 創仁会 荒井診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、福島市郊外金谷川地区と大森地区の境目に位置し、自然環境豊かな場所に設置された木造平屋建て(2ユニット)で、調和の取れた造りとなっている。平成18年3月の開設以来着々と環境を整え、ホーム南側の家庭菜園には数種類の野菜を栽培し、毎日の食卓に供されている。食事の時間は取り立ての野菜の話で盛り上がり、利用者と職員が共に楽しみながら食事をしている。また、利用者の居室や共用空間には、手作りのさまざまな作品が展示されており、賑やかな楽しい雰囲気になるよう演出されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された、取り組みを期待したい内容の「職員の異動等」に関して、具体的な改善へ向けた話し合いが行なわれていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義や目的を理解し、職員全員で自己評価に取り組んでいる
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、議事録も作成されているが、毎回ホーム側の一方的な行事報告で終始し、地域住民や家族の方からの積極的な発言と協力が得られていない印象を受けた。地域密着型施設としての社会的役割をもっと強く説明し、地域全体から信頼されるホームづくりに尚一層の努力をして頂きたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を設置し家族からの意見や苦情の収集に努めているが、なかなか運営に反映させることが難しいようである。毎月の請求書発送の際に担当職員から自筆の手紙と利用者ごとの健康通信を郵送しているの、今後はさらに利用者の日頃の様子をおさめた写真などを同封するなどして、家族との連携と相互信頼を高めていくことが求められる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者一人ひとりが町会費を納めており、さらに事業所も町内会に加入するなどしているが、地域との交流が少なく感じられる。今後は地域包括支援センターの担当者とも相談して、区長をはじめとする地域住民と交流を図るよう努力していただきたい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族・地域の方々とのつながりを大切にして、地域の中でその人らしくのびのびと暮らしていただけることを理念として作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務を通じて理念の共有、意識付けを行っている。また、毎月1回開催している全体会議において、原点を振り返りながら理念の実現に向け話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者全員が町内会費を納入しており、地域行事への参加なども行なっているが、積極的な交流には至っていない。	○	利用者全員が町内会費を納入していることでもあり、隣近所や町内会の行事には積極的に管理者が顔を出して、まずは馴染みの関係を深めてほしい。そして、今後さらに、地域住民との交流に広がりを持てるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全職員に、自己評価・外部評価について説明を行い、ユニット毎に自己評価票をつくり、管理者がまとめた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に行われているが、事業所側からの一方的な行事などの報告事項に終始し、形式的な会議になっている。</p>	○	<p>会議を開催することが目的ではなく、席上で出された意見をもとに、ホームとしてサービスの向上にどのように活かされたか、次の目標は何かについて出席者と共に話し合うことが大切。地域密着型施設としての役割を会議のメンバー全体で理解し合うことが望まれる。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態を記録した健康通信や金銭管理、生活の様子など、利用者の家族へ職員が手紙を書き毎月郵送している。また、家族の面会時や電話の際などに状況に応じて利用者の暮らしぶりを報告している。</p>	○	<p>利用者の日頃の様子を写真にして送付したり、また担当職員が変わった時などは、名入りの顔写真を送付するなどして、利用者家族に知らせてほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設置しており、開催日はホームの行事日にあわせ家族が参加しやすいように配慮をしている。また、家族同士の交流や意見等を出しやすいよう努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着率が低く、家族や利用者にとって不安を感じさせる。</p>	○	<p>職員が変わるということは、利用者と家族にとって一番の不安材料になります。新しい職員が慣れるまで馴染みの職員が見守りながら支援し、切れ目のない関係の持続に努めていただきたい。</p>


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修に参加しやすいように、開催案内等を回覧し希望があれば積極的に参加させるなど職員の資質向上に努めている。研修後は報告書をファイルにして、全職員がいつでも見れるように配慮されているが、内部研修(報告会)が十分でない。	○	内部研修(報告会)は出席者のさらなる資質向上に繋がるので、その都度必ず開催するようにしてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の研修会に参加して、同業者との交流に努めている。しかし、研修会時以外で同業者と交流する機会が少ない。	○	福島市の同一地域(金谷川・大森・南福島)には多数の同業者があるので、他の事業所の実践を参考にして質を向上させるためにも、管理者同士の交流を始めてほしい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、日々の生活の中で料理、後片付け、掃除、などを一緒に行うなど、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	すべての職員が利用者一人ひとりに関わり、表情や行動の把握に努めており、話を聞くときは椅子に座るなど話しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、認知症介護研究・研修東京センター方式を用いて職員間の情報の共有とケアの向上に活用している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向をよく聞き、職員からは毎日の日誌や月1回のスタッフミーティング等で情報と意見を交換し、全員が参加した介護計画づくりをしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し以外にも、状態が変化した場合や必要に応じて、職員や家族と話し合い、随時介護計画の見直しを行なっている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医を変えない方針で、受診の際には家族に同行してもらい、家族が同行できない時は職員のみ受診に付き添い、その結果を家族に報告している。また、協力病院の医師に月2回往診してもらうとともに、緊急時にはかかりつけ医や、協力病院との連携が築かれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの説明や同意書を作成し、家族やかかりつけ医と話し合いを行い、方針の共有に努めている。現在ターミナルケアに関する利用者家族の意向を把握するために「家族アンケート」を作成中である。	○	同意書は入所時だけでなく、状況や必要に応じて段階的に本人や家族の意向を確認し、関係者全員で方針を共有することが望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の中で、トイレ、入浴などは誇りを損ねないように、言葉かけに気をつけて対応している。個人情報は事務所に適切に保管し、また取扱には十分注意をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその時の体調や状況に合わせて日々の暮らしを支援している。また、畑の野菜の収穫や散歩に行くときなどは、見守りながらその人らしく過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考えたり、食事の買い物をする際には2～3ヶ所のスーパーを利用し、買い物を楽しんでもらえるよう工夫をしている。調理、配膳、下膳など、それぞれの利用者ができる範囲で行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるが、利用者一人ひとりに希望を確認しながら入浴してもらっている。時間帯も本人の希望に応じて対応するなど、押し付けにならないよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	買い物、調理、配膳、後片付け、掃除など自分の出来ることを役割として行っており、それが張り合いになっている。小旅行や誕生会、花見、七夕など毎月楽しめる行事の工夫、手作り菜園での野菜の収穫など、楽しい時間を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	郊外型住宅地なので、田園風景も多く、交替で付近の散歩を楽しんでいる。ドライブの希望があれば個別に出かけるなど、戸外で過ごす時間を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることなく、利用者の状態把握を心がけ、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防災設備会社の協力で防災機器の点検と使用方法等についての訓練を行なっている。しかし地域の人々の協力を得るには至っていない。</p>	○	<p>災害時を想定し、利用者が参加する非難訓練も行ってほしい。運営推進会議を通して地域の人々の協力を得、避難訓練を実施していただきたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員に栄養士がいるので、常にアドバイスを受けている。水分量、食事量を記録し、排泄チェック表と連動させて水分の補給をしている。利用者の嗜好を把握し、おにぎりを作ったりする工夫と配慮を行なっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は広くゆったりしており、採光も良く全体的に明るい。小枝を利用した作品などが飾られた中で、利用者は思い思いにくつろいでいる。また、窓からは梅や柿の実が見えるので季節感を感じることが出来る。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室入り口に利用者が描いた絵などを飾るミニギャラリーがあり、部屋の目印にもなり利用者の個性を大切にしている。本人が使っていたソファなど、使い慣れた家具を持ち込んでもらい、安心して暮らせるよう工夫している。</p>		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 四季彩

記入担当者名 小林 のぞみ

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。